

文化祭&夏休みの活動特集



秋というと、「○○の秋」という言われ方をします。あなたなら○○の中に何を入れますか。「食欲」か「芸術」か、それとも「スポーツ」でしょうか。私なら「実り」を入れて「実りの秋」です。春から努力してきたことが実となって結実してほしいと思うからです。

また、秋は深まるという言い方をしますが、春や夏は深まるとは言いません。不思議です。秋が深まるとなぜか寂しくなり人恋しくなりません。そこでこんな俳句が思い浮かびます。

「秋深き 隣は何を する人ぞ」

秋も深まった旅先の宿で、隣家は灯りがこぼれている。隣人のことは知らないが、いったいどんな生活をしている人だろうか。詠んだのは俳人、松尾芭蕉。この句を読んだ2週間後、芭蕉は息を引き取ります。秋の深まりの中で人のぬくもりを感じさせてくれる秀句です。

同朋高等学校長 梅田 功

同窓会より



名鉄ニューグランドホテルを会場に、今年度の同窓会総会を開催しました。回を重ねるごとに、多くの方に参加していただくようになりました。今回は200名を超える同窓生とお世話になった先生方にお集まりいただき、な総会となりました。

会計報告などの議事に続き、おいしい食事とゲームやアトラクションの充実したパーティーでは、世代を超えた同窓生の笑いが絶えない時間となりました。

同窓会は、毎年8月第1日曜日に同窓会総会を実施しています。来年の総会は、8月6日(日)に実施予定です。3年生のみなさん、来年の同窓会総会でお会いできることを楽しみにお待ちしております。(幹事一同)

「同朋オープン・フォーラム2016」にぜひご参加ください

今年も、生徒・保護者・市民・教職員の四者で「教育・学校づくり」を考え、話し合う「同朋オープン・フォーラム」を実施します。昨年度末から何度も打ち合わせを行い、準備を進めております。

今年は「頼りになる仲間 同朋ファミリー～大人になるためのステップ。つなげよう未来に～」をテーマに開催します。昨年、公職選挙法が改正され、18歳で選挙権を持つようになりました。選挙権を持つということは、社会に対して責任が生まれるということです。

家庭で、学校で、何ができるのか。本校の授業実践などもご覧いただきながら、一緒に考える機会としましょう。11月9日(水)、10日(木)には「わくわく公開授業」(在校生保護者対象の授業参観)もあります。詳しくは別紙をご参照ください。(実行委員会事務局/宮城 道良)

日 時：2016年11月12日(土)9:00～12:30

開催場所：本校 多目的ホール ほか

スケジュール：①全体会

②分科会

- ・大人な18歳になるために
- ・進路を自ら切り拓く
- ・わくわく公開授業
(授業を終えての意見交流)

③全体会(まとめの集会)

Schedule 〈行事予定〉

11月		
9	水	生徒会立会演説会、公開授業(5-6限)
10	木	公開授業(3-4限)
12	土	同朋オープンフォーラム
13	日	珠算電卓検定
21	月	報恩講
24	木	期末考査(～12月1日)
27	日	ビジネス文書検定
28	月	学園研鑽日
12月		
2	金	休校日
3	土	PTA常任委員会
15	木	修学旅行1団出発(～18日)
16	金	修学旅行2団出発(～19日)
17	土	3商 マナー・身だしなみ講座、1年生DV講演会
20	火	修学旅行3団出発(～20日)
21	水	3年生DV講演会
21	水	終業式
1月		
10	火	始業式、音楽科卒業演奏会
19	木	3年生卒業試験(～25日)
20	金	英語検定
22	日	簿記検定
28	土	PTA常任委員会、学級懇談会、1・2年生保護者進路ガイダンス
29	日	情報処理検定
2月		
2	木	推薦入試
5	日	商業経済検定
9	木	一般入試
16	木	午前授業
17	金	卒業式リハーサル
18	土	卒業式
21	火	2音 学年末考査(～27日)

2016年度 秋の「助成金拡充請願」活動について



今年度も『オータムフェスティバル(地域別県民文化大祭典)』を県下39会場で開催しております。それぞれの会場で県議会議員さんにご登壇いただき、愛知県や市町村の「助成金拡充請願」についてご理解をいただいております。

本校では責任・担当会場となっている11会場を中心に、生徒、保護者、卒業生とその保護者、本校教職員、また他私学関係者や市民とともに、準備・運営を進めております。

同朋学園助成金推進協議会としても、今後開催される11月12日(土)の同朋会場(名古屋中村会場/メインゲスト:岸田メル氏)をひとつの大きな結節点としながら、さらに大勢の方の理解を得たいと考えております。

今後も、12月の愛知県議会で審議される「請願署名」採択に向けての活動、ひいては2017年度以降の私学教育を左右する大切なフェスティバルが続いていきます。「私立高校無償化」「教育の公平」実現のため、「オータムフェスティバル」へのご参加、助成金拡充署名へのさらなるご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、オータムフェスティバル運営協力券の普及、請願署名、これまでの会場への参加・運営・準備など、多くのお力添えをいただいておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

(同朋学園助成金推進協議会/坪内 翼)



'16年度文化祭

ゆかり

今年の文化祭は悪天候に振り回されました。前日の台風だけでなく、その後も秋雨前線の影響ですっきりしない天気が続き、野外ステージや屋外の準備は大きな影響を受けました。そして、スケジュール変更のために上演日時が変わったクラスやアカデミークラス再上演のように、企画自体がなくなってしまったものもありました。

そんな中、多くの生徒、実行委員、協力クラブ、教職員、保護者、業者の方など多くの人ががんばりと協力で無事に文化祭を終えることができました。お互いがんばりを讃え合い、協力に感謝し合いたいです。

同朋高校の文化祭はクラス企画が中心です。1年生は「創造つくる」、2年生は「同朋ミュージアム」、3年生は「演劇・パフォーマンス」と部門ごとに分かれてクラスで取り組みます。6月から続く準備の中では、がんばろうという想いをうまく伝えられずに困ったことや、手伝わてくれる人が少なくて悩んだこともあると思います。それら乗り越えることで、仲間と力を合わせること、創り上げることの達成感、そしてなにより普段では見ることができないクラスメイトの姿を見ることができたでしょう。文化祭の最大の目標はクラスメイトを知るといってもいいのです。

文化祭が終わり、今のクラスで過ごす時間はあと数か月となりました。文化祭をきっかけとして今後もよりお互いを知り、最高のクラスを作り上げていきましょう。

(文化祭総務担当/岡田 暁彦)

文化祭 受賞クラス一覧

アカデミー賞(学年・部門別最優秀賞)

3年生 演劇部門	308	サウンド・オブ・ミュージック
パフォーマンス部門	309	『和』～君の和は。～
2年生 同朋ミュージアム部門	201	Honey Hunt with 201 class
1年生 創造・つくる部門	101	Fly! Fly! Fly! パラグライダー

ベストクラス賞(来場者による投票)

2年生 同朋ミュージアム部門	209	K.K coffee
1年生 創造・つくる部門	108	VS Alice 108 with Disney

成長できた私

3年アカデミー賞・演劇部門

308 藤原 英里香

(志賀中学校出身)

私は最初、舞台に立つのは向いていないと思っていた。裏方みたいに器用に作業をこなすのも苦手なので、歌わない役がやりたいと思いい手をあげたら、思いのほかセリフが多い役になってしまった。そのため、最初は進学補習や自習室など、何かと理由をつけて練習に行かなかった。

2学期になると、メインキャストの子たちのやる気がより高くなり、これは私も残るべきなのか、と思うようになっていった。

た。最初はあまり乗り気ではなかったが、練習していくうちに、その役がどんな人物なのか、自分の役を自分そのものにするというような感覚がどこか嬉しくて、気づけば夜遅くまで残って練習をしていた。すると、普段あまり関わらない子とも話すようになり、その子のいい一面がたくさん見えてきた。怖そうに見えて、本当はやさしい人がこのクラスに多いんだと実感した。自分の意見をはっきり言うことが苦手だったが、文化祭を通してそれも上手に言えるようになっていった。ここはこうしたい、と言えることで、相手のことを聞いてばかりではなく、自分もその会話に参加することができるようになったのが、文化祭での大きな成長につながったのではないかと私は思う。気づけば台本は、他の子や演技指導で言われたこと、自分がこうしたいと思ったことで埋まっていた。



リハーサルの日が実は私は一番緊張していた。リハーサルではミスをしてしまった。だが、それがあつたお陰で、本番はミスをするこなく演じることができた。終わった後は何も考えることができず、茫然としてしまったがアカデミー賞を獲

商業科魂

3年アカデミー賞・パフォーマンス部門

309 豊嶋 彩乃

(はとり中学校出身)

り輪になつて二人ずつ話をするとときになって、自然と涙が出てきた。私がここまでできるようになったのは、協力してくれたクラスみんなのお陰だと改めて思った。8組のみんな、ありがとう。

でも思うように練習が進まない。今の時間を進路の事にあてられるよな...いつもより神経質になっていたと思う。

就職試験と重なった今年の文化祭は正直苦しかった。最後の文化祭に集中したい気持ちではあつても、面接練習でたくさん手直しされた後に教室に足を運ぶのは気持ち乗らなかつた。みんなが決めた日に練習に参加し



本番、たくさんハプニングがあつて悔しい気持ちも残つたけれど、それを上回る達成感と「楽しかった」という気持ちがあつた。体育館に

響き渡る「どっこいしょ」の掛け声には震えだし、見慣れたクラスメイトの凛とした姿に安心感も覚えた。結果発表。クラスが円になり発表を待った。「309!」その瞬間涙が溢れ出た。体育大会で同じ群団だった201とも喜びを分かち合い、再演をお願いした職員室へ全員で押しかける。309が気持ちをひとつにして行動した瞬間。こんなこと、これからの人生においても二度と味わえないのではと思った。みんなの気持ちが一瞬となつた最高で最後の文化祭だった。家に帰ってからも、残り頭の中では太鼓の音が鳴り響いていた。商業科W受賞はできなかったけれど、私は310の演劇を観て泣きそうになつた。それは、3年間一緒だった仲間の本気の演技を目の前にしたから。作り上げるまでの過程を隣で知っていた感動が大きかった。私は本当に同朋高校商業科に入つて良かったなと思う。それは、商業科魂を知れたから。

大人になつても、きつと忘れない。

2年アカデミー賞・同朋ミュージアム部門

201 安藤 音々

(愛知教育大学附属名古屋中学校出身)

「アカデミー」とは一体、何なのだろうか。辞書で引くと、「学問、芸術、技術等に関する公私の指導団体」とありましたが、これだけではピンとこなかった。この「アカデミー賞」も引いてみました。「アメリカ映画界における各年度優秀作品、男優、女優、監督、技術部門に与えられる賞」とありました。...なるほど、この意味で考えると、私たちクラスの一人ひとりとは男優、女優で、担任の小堀先生は監督、「Honey Hunt」は作品だったのです。

私は劇団「201」の中の一人の女優として、役割を全うできたでしょうか。最初、私は活動に力を入れることができませんでした。そんな中、一人二人と自ら行動し始めてくれたクラスメイトから、ミツバチから考える食糧問題を理解していき、私もこの一つのシヨークに参加したいと強く思うようになり、校内で最初にボスターを描き、貼りました。そのことが観客の目を惹き、成功につながったのであれば嬉しいです。私は美術系を選択しているのでも自分の強みを活かして、一人の「役者」として舞台を創りあげられたと感じることができました。



オーストラリアホームステイ



8月5日からの17日間、18名の生徒と引率教員2名で、本校の提携校であるオーストラリア・サンシャインコーストのUnity Collegeで語学研修プログラムを実施しました。

現地では語学研修だけでなく、Unity Collegeの生徒宅にホームステイをさせていただきました。初めは英語が聞き取れない、言いたいことが言えないもどかしさを感じていた生徒も、段々完璧な英語ではなくても伝えようとする気持ち、自分から行動する大切さに気付き始めました。そして自分が積極的になり、楽しむことで周りが笑顔になり、人と関わることで自分の世界観が広がるという経験をしました。

今回のプログラムを通して数々の不安を乗り越え、自ら行動を起こしたということは、生徒の大きな自信になったはずです。この経験をこれからの学校生活に活かし、多くのことに前向きに挑戦することを期待しています。

(国際交流委員会 / 石塚 亜衣)



オーストラリア語学研修を終えて

106 谷口 玲央奈 (小牧市立岩崎中学校出身)

私はこのオーストラリアでの2週間のホームステイでたくさんのことを学ぶことができました。

1つ目はコミュニケーションの大切さです。私は人見知りでホストファミリーに初めて会った日は自分から話しかけることができず、言っていることもあまり聞き取れなくて、次の日の朝がきてほしくないなと思っていました。しかし3日目くらいからは少しずつ自分から勇気を出して話しかけられるようになり、そこから毎日がとても楽しくなりました。家で英語が分からなくてもホストファミリーとなんとか話すことがとても楽しかったし、学校でもランチの時にバディの友達と少し話してみるだけでとても楽しく感じました。自分から頑張って積極的にコミュニケーションをとることは大切なのだと思いました。またオーストラリアの人はすれ違う時に知らない人でも微笑んでくれて、それだけですごく優しい気持ちになれるのでそういったコミュニケーションもいいなと思いました。日本にいる時は恥ずかしくてなかなか自分から話したりすることができなかったけど、オーストラリアに行って自分からいろいろな人に話しかけられるようになってよかったです。

2つ目は親のありがたさです。ホームステイをして今まで自分は



親に頼りっぱなしだったのだなと気づきました。当然オーストラリアに親はいないので自分のことは自分でやらなければいけないし、パスポートの管理も自分でしなくてはなりませんでした。私のホストシスターとホストブラザーはすごくたくさんお手伝いをします。ご飯の用意や食事が終わった後の食器洗いやデザートを用意などをしており、親が働いて子どもが家事をやる感じでした。私は日本にいてお手伝いを少ししかやっていなかったの、初めてホストシスターとホストブラザーが食器洗いをし親がテレビを見ているのを見たときには、私もしっかり親の手伝いをしなくちゃいけないなと思いました。

3つめは家族との過ごし方です。ホストファミリーは休日に出かけるときは必ず家族全員で出かけます。家族の誰かのスポーツの試合があれば全員で応援に行くなど、家族で過ごす時間をとても大切にしており、そんなところがいなと思いました。

またオーストラリアに行った時にホストファミリーと楽しい会話ができるようにするためにこれから英語の勉強をしっかりとしたいと思います。またオーストラリアで学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです。



飛べ！パラグライダー

101 三輪 良乃
(天治町立天治中学校出身)

私たちのクラスは、パラグライダーを作りました。初めての文化祭で、なかなか何を作るか決まりませんでした。「今まで同朋生がやったことのないものを作りたいね」ということもあり、担任の先生が「パラグライダーを」から作ったらどうか」と提案してくださいました。

しかし、知識など全くない私たちに、一からパラグライダーを作り飛ばすことができるか不安でいっぱいでした。準備は、まず岡崎のパラグライダースクールに行き、本物を見に行くところから始まりました。そこで教えていただいたことを元に材料を集めました。しかし、お盆までに集める予定だった材料がそろったのは夏休みの終わりでした。そこか

ら急ピッチで作業を進めました。授業後に残ったり休日に来たりする子が少なく、不安はもつと大きくなりました。しかし、積極的に声掛けをして、徐々に残ってくれる人が増えました。作業は進み始めました。

文化祭初日。この時点でまだ二度も実際に飛ばしたことがない事実焦りました。この日は実際に飛ばしてみることができました。しかし、パラグライダーの形はなつても、人が浮くことはありませんでした。そして迎えた公開日。雨天により、教室の展示のみになりました。私は審査員の先生方に、これまでにしてきたこと、実際に飛ばせない悔しさを伝えました。

結果発表の時。私は教室へ戻る途中でした。すると担任の先生が「発表はみんなで聞こう！」と言い、私は急いで教室に入りました。教室に入った瞬間、「アカデミー賞は、101」という放送が流れました。みんなでハイタッチをして喜びました。

私は文化祭を通して、みんなと一つのものを作り上げる難しさ、それを達成した時の喜びを感じました。高校生活初めての文化祭を私はずっと忘れません。とても大切な思い出になりました。

文化祭感想／生徒実行委員長 文化祭の意味

211 木村 友香
(稲沢市立大里東中学校出身)

みなさん、文化祭おつかれさまでした。今年の文化祭は、残念ながら台風の影響で1日無くなつてしまいました。しかし、それにより準備の時間が少しだけ増え、クラスの仲間との絆や、完成したときの一体感が深まったのではないのでしょうか。

文化祭は、1人ではできないことに挑戦する機会です。そのため、ひとつの目標に向かってみんなと協力し合い作業することになります。その中で、苦労と感動を得た人もいたことでしょう。みなさんのおかげで、昨年度を超えるような素晴らしい文化祭を創りあげることができたと思います。

これらのことは、私たちの人生にとって良い経験となり自信になります。すばらしいこの文化祭の思い出を忘れることなく過ごしていけると、文化祭の意味を改めて感じることができると思います。

PTAバザー報告

今年度も、文化祭にてPTA四委員会(事業・文化・地域懇話生活指導・父母懇友の会(保護者OB/OGの会))によるバザーが実施されました。

当日は雨天にもかかわらず、来場者の多さにも助けられ、各委員会とも収益を上げることができました。事業委員会からは、「焼きそばの材料が想定より高かったものの、みなさんにたくさん買っていただけた」との報告があり、喫茶店を運営した文化委員会からは、「雨天で気温は低かったですが、湿気が多かったのか冷たい飲み物が売れ好調でした」との報告。地域懇話委員会からは「朝から一生懸命、唐揚げを揚げました!」、物品バザーを担当した生活指導委員会からは「在校生保護者のみなさんからたくさん品物を提供していただき、ありがとうございました。おかげさまで大変好評でした」と報告を受けました。今年度PTAバザーは、合計で17万4235円の収益金がありました。

なお、この収益金につきましては、例年学校生活に必要な備品購入などに使用させていただいております。使途が決まりましたら、保護者のみなさまにお知らせいたします。

PTA常任委員のみなさまをはじめ、出店いただいたみなさまには、バザーの準備から当日の運営、後片付けまでご協力いただきました。本当にありがとうございます。(総務部長／宮城 道良)



男子 ソフトボール部

たくさん笑って、
たくさん泣いて…
県選手権大会準優勝！

308 生田 瑞貴（春日井市立東部中学校出身）



中日本大会に出場が決定した時、私はまったく実感がありませんでした。周りが喜んでる状況に対して、私は不思議な感覚でした。実感が湧いてきたのは、県大会が終わってすぐの練習でした。まだこの仲間と顧問の先生のもとでソフトボールができるという喜びを感じた時に、準優勝したのだと思いました。

私が入部した3年前、チームは1回戦も勝てない状態でした。少しずつ力をつけて、私たちの世代になり、最後の選手権大会で準優勝できたことは本当に嬉しかったです。中日本大会では、2回戦で負けてしまいましたが、ソフトボール部で過ごした3年間はとても有意義な時間でした。

時には優しく、時には厳しくしていただいた、顧問の先生方。そして、たくさん笑って、たくさん泣いて、共にソフトボールをしてくれたチームメイトのみんな、本当にありがとうございました。

最後に、男子ソフトボール部を応援していただいたみなさま、本当にありがとうございます。



活躍している

部活動

この夏、多くの部活動が全国大会へ出場するなど、活躍しました。

乗馬部

最後の インターハイ

301 奥田 圭悟（日比津中学校出身）



僕は、同朋高校に入学してから乗馬を始めました。乗馬部に入部するまでは、「馬に乗るだけかな」と勝手に想像していました。しかし、実際はまったく違ってました。馬に乗った後は、馬の全身をお湯で洗い、朝夕の2回、飼葉を与えます。毎日のように馬の世話をしていると、自然に責任感が身についてきたように感じます。

いよいよ、富士山麓の御殿場市でインターハイが開催されました。閉会式には秋篠宮文仁親王殿下が参加されていました。試合では、3年間培った技術を振り絞ったのですが、勝ち上がるのは難しく、残念ながらグループ2位で負けてしまいました。これで3年間の乗馬人生が終わったのかと思うと、とても悲しく、また悔しかったです。

目標であつた予選通過を達成できませんでしたが、この大会を見て刺激を受けた後輩たちが、目標を達成してくれると信じています。今後も乗馬部を、応援よろしく願います。



Club & Award News

乗馬部

- 第50回全日本高等学校馬術競技大会東海大会
第2位 全国大会出場

放送部

- 第63回NHK杯全国高校放送コンテスト愛知県大会
ラジオドキュメント部門
「だてマスク」～何が隠したいの～
優良賞 全国大会出場（準々決勝進出）

男子ソフトボール部

- 第40回愛知県高等学校男子ソフトボール選手権大会 準優勝
- 第60回中日本総合男子ソフトボール選手権大会 2回戦出場

柔道部

- 平成28年度少年男子国民体育大会柔道競技愛知県二次予選会
73kg級 第3位 島 雅人（202／東海市立横須賀中学校出身）
100kg級 第2位 今井 竜弥（309／神の倉中学校出身）
- 平成28年度少年女子国民体育大会柔道競技愛知県二次予選会
52kg級 第2位 伊藤 羅奈（107／小牧市立小牧中学校出身）
無差別級 優勝 金田 綾（206／一宮市立千秋中学校出身）

陸上競技部

- 平成28年度愛知県高等学校新人対抗陸上競技大会名南支部予選会
女子ハンマー投 第4位 藤田 苑（201／岐阜市立境川中学校出身）
男子ハンマー投 第5位 奈木野京介（209／富田中学校出身）

女子バスケットボール部

- 平成28年度夏季名古屋南支部バスケットボール選手権大会 準優勝

ラグビー部

- 第13回飛騨市長杯ラグビーフットボール大会 準優勝
- 第58回市民スポーツ祭 高校の部 ラグビーフットボール競技 第3位
- 平成28年愛知県私学祭体育大会 準優勝

その他

少林寺拳法

- 高校総体愛知県大会 第2位 全国大会出場
磯谷 光希（201／供米田中学校出身）

放送部

第62回NHK杯 全国高等学校放送コンテスト 全国大会に参加して

302 伊藤 ちひろ（長良中学校出身）



今回制作した作品は、「だてマスク」をテーマにしました。制作中にマスクの製造会社や心理カウンセラーの方に取材をし、マスクをつける人々の心情とはどういったものなのか改めて知ることができました。

この作品の制作メンバーは、ナレーターやキャストを除くと主に私と後輩の男の子の二人だけだったので、大変なことがたくさんありました。しかし、他作品制作の部員のアドバイスもあつたので、作品を完成させることができました。そして、取材に協力してくれたみなさんにも心から感謝しています。

今回、全国大会は準々決勝で敗退してしまいました。その理由のひとつは、全国大会に「出場するため」の作品だったからだと思っています。上位に残った作品は、本気で全国制覇するために作られた作品だと感じました。後輩には、大会出場だけでなく全国上位も目指せる作品を目指してほしいです。

大変なことではありますが、決して悔いは残らないはずです。同朋高校放送部が、「全国上位常連校」と呼ばれる日が来るのが楽しみです。

音楽科 アンサンブル演奏会

先輩として

311 田中 歩
(扶桑町立扶桑北中学校出身)

高校生最後のアンサンブル演奏会では、初めて2台ピアノを経験しました。ペアを組んだ2年生とは、今まであまり話したことがなく、うまくやれるか不安がありました。これまでソロの演奏が多く、アンサンブルの経験がほとんどない私にとって、「先輩だから」という言葉がとてもプレッシャーになりました。どう曲を作りあげたら良いのか、どんなアドバイスをしたら良いのか、自分に自信が持てませんでした。それでも練習を重ねていく間に、曲を良い方向へと作りあげることができました。

しかし、技術や表現以外にまだ何かが足りない、でもそれは何なのかという感覚が演奏会直前まで続きました。

当日のリハーサルでは、お互いの音が聞けず余裕のない演奏となり、本番で練習の成果が

出せるのか不安で涙が出ました。そんな時に先生方から「落ち込んでいたらダメだ」「今までの練習に自信を持つて」と励ましの言葉をいただき、気持ちを入れ替えることができました。本番の演奏は完璧ではなかったけれど、ソロではなく2人だからこそ感じられた想いと達成感、そして何より弾いていて楽しかったと思うことができたことが、演奏する上でとても大切なことだと改めて学びました。演奏後には、ペアを組んだ後輩と嬉し涙を流しました。

今回の演奏会では、初めての経験が多く戸惑いや不安ばかりでしたが、決して無駄なことではなく、自分を一歩成長させることができました。この機会をくださったことに感謝し、今回感じた思いをこれからも大切にしていきます。

音楽科 合唱・オーケストラ演奏会

一番良い演奏

212 土屋 みいな
(北名古屋立天神中学校出身)

私は、オーケストラの部で第2ヴァイオリンを担当していました。初めて今回の演奏会で使う楽譜を配られたとき、難しくて全く弾くことができませんでした。本番までに曲が仕上がるのかどうか、とても不安でした。また弦楽器、特に私たちがヴァイオリンは少ない人数の中でメロディを弾かなければならないことも多く、大変でした。

今年は例年よりも曲が難しく、なかなか上達しませんでした。本番が近くなり、放課後に練習をして、ようやく少しずつ上達してきました。自分の音はもちろん、他の楽器の音もよく聞き、みんなで音楽を作りあげていくことは、私にとって慣れないことでした。しかし同時に、とても楽しいものでした。本番では、今までで一番良い演奏ができたのではないかと思います。



来年、同朋高校音楽科が50周年の節目の年に、私たちは3年生になります。最高学年としてオーケストラの中心となり、より一層良い演奏ができるように精進したいと思います。

第48回 音楽科

卒業演奏会のお知らせ

多くのみなさまのご来場をお待ちしております。

2017年1月10日(火)

会場：ザ・コンサートホール

(伏見・電気文化会館内)

開場：18時00分

開演：18時30分

見真の日「感話」

本校は、親鸞聖人の恩徳を讃え、毎月28日を親鸞聖人の諡号「見真大師」にちなんで「見真の日」としています。本年度より、担当教員が生徒の感化をうながす「感話」を行っています。

- 5月 久保田 彩 先生 「いただいた命」
- 6月 加古 敦久 先生 「校訓『真理探究』とは何か」
- 9月 梅田 功 先生 「他者を通して自己を知る」

商業科 職業教育技術顕彰

愛知県は職業資格の取得を通し、技術・技能の習熟、目的意識をもって充実した学校生活を送り、将来にわたり豊かな職業生活を営むことを目的とした技術認定制度があります。

本校からも日頃の学びの成果が実り、商業科の3年生を中心に54名の生徒に対し、愛知県知事から「職業教育技術顕彰」が授与されました。顕彰が授与されたことに自信を持ち、これからも学びに対し真摯に取り組んでもらいたいものです。

(商業科主任／本田裕規)



★愛知県職業教育技術顕彰受領者

今井 康介	岡山 将也	加藤 頼哉	佐久間俊光
澤江 優希	安井 毅	安藤 栞	石川 美空
岩崎 衣里	浦岡 寧々	尾関 玖美	川崎 琴羽
木村 彩音	倉田 華鈴	小島 唯華	佐々木瑞帆
高津 結衣	寺村 香澄	豊嶋 彩乃	中村 紀香
早川 莉央	牧原 玲奈	松尾 歩実	松田 彩
溝口 宝	山口 朱莉	小木曾太輝	葛谷 魁
柴田 拓真	長谷 修一	長谷川祥吾	村川 太洋
山田 康一	青木 リカ	浅井 凜香	石川 莉央
加藤 舞花	河合 瑠美	齊藤 見空	佐藤 優衣
澤 あかり	鈴木 依里	中島 柚貴	永野 友海
成田麻里江	花井瑠莉奈	花木 里菜	二村 菜月
古田 愛香	松本 空	森口日加里	森田 優香
和田 未央	和田 陵佳		以上54名

教育実習を行いました

★教育実習を終えて

5月23日から6月10日までの3週間、母校である同朋高校で教育実習を行いました。教育実習を通じて、教師の仕事の多さと大変さを知ると同時に、先生方の授業の素晴らしさと教職のやりがいを実感しました。実習中は自分の力不足を痛感するばかりでしたが、担当の先生の熱心な指導や、生徒からの励ましに背中を押されました。実習を終え、自分が大きく成長できたことを実感することができました。

(2012年度卒業生／神村 あずみ)



同朋セミナー



同朋セミナーとは、土曜日曜、平日の放課後、夏休みなどの長期休暇中に、「授業の中だけでは学べないことを学ぶ」ことができるものです。在校生だけでなく、卒業生や地域の人たちなど広く参加できるものとなっています。セミナーで開講される講座は、「生物の解剖」や「農作業体験」、中村区にある名古屋第一赤十字病院と協力して行われる「ピンクリボン運動」など多岐に渡ります。以前は、「自由選択講座」という名称で行われていたものを、3年前から「学び」の原点に返ろうと名称を変えてスタートしました。今後さらに地域や保護者の方の参加も促し、同朋高校をステージに様々な大人と生徒が学び、議論を交わし合えるような機会を作っていきたいと考えています。



をステージに様々な大人と生徒が学び、議論を交わし合えるような機会を作っていきたいと考えています。

伊藤園「おいしいお茶新俳句大賞」で入選しました

2008 斎藤 実莉 (田光中学校出身)

「入道雲あなたの元へつれてって」

この俳句に込めた気持ちは、一言で言うとは片想いです。私は好きな人や友人、家族など大事な人と離れていると、不意に相手のことが心配になることがあります。1度気になり出すとすぐにでも相手の所に行きたくて仕方なくなります。その時に、空に浮かんでいる入道雲を見て、「あれに乗って会いに行けたら。」と思いました。

他に、こんな思いもあります。長い間会っていない「あなた」のことを、今でも思い出して何をしているのだろうと考えてしまうということです。けれど、長い間話もしていないのにいきなり会いに行つて話すことなんてできません。入道雲があの人いる所へ連れて行つてくれて、上から見るだけでもいいから会いたい、そんな思いです。

この俳句には私にも2つの思いが入っている、これを読んだ人がいろいろな思いを感じてもらえればいいなと思います。伊藤園新俳句大賞の佳作特別賞に選ばれたこと、大変嬉しく思います。



芸術鑑賞

今年度は「ドラムストラック」を鑑賞しました。本校にとっては、久しぶりに演劇以外の分野でしたが、リズムカルなドラムと激しいダンスで生徒を惹きつけるパフォーマンスはとても素晴らしいものでした。言葉も通じない演者たちが、身振り手振りを交え、会場を巻き込み、そして会場全体でドラムを叩き1つの作品を作つていく様子は圧巻でした。

(生徒会部/坪内 翼)



地域懇談会を終えて

第40回地域懇談会

「頼りになる仲間 同朋ファミリー」

～安心して下さい。何でも話せますよ～

同朋高校の伝統ある学校行事「地域懇談会」も、今年で40回目を迎えました。地域懇談会は、みなさまのお住まいを24の地域に分けて、担当の先生が各地域に出向き、地域単位で行う懇談会です。担任とは違う先生との出会いや、学年・クラス・学科を越えて話せる「頼りになる仲間」が増える絶好の機会でもあります。

進路のこと、部活動のこと、子育ての不安や悩み、同じ地域ならではの悩みなど何でも相談できますし、先生からは学校での様子を聞くことができます。美味しいスイーツや飲み物の準備など、各地域のアットホームな雰囲気作りの工夫で、学校への疑問や要望なども気軽に話し合える場となっています。

今年も多くの保護者のみなさまにご参加いただきました。各地域の工夫を凝らした企画は、卒業生や卒業生の保護者による体験談、先生の講演、フオークソング部のミニコンサート、意見交流などさまざまです。今年は先生によるプチ授業を実施した地域が多く、日ごろ子ども達が生徒の先生に学んでいるかを知ることができ、「参加して良かった」とのご意見をたくさんいただきました。また、懇談会のお食事会を実施して、更に親睦を深めた地域も多数ありました。

地域懇談会で行われたご意見は、11月12日に行われる「同朋オープンフォーラム」に反映されます。同朋高校の教育環境がより良いものになるよう、生徒・先生・保護者が一緒に話し合う場です。直前の11月9日・10日には、「わくわく公開授業」も実施されます。たくさんのご参加をお待ちしています。

(PTA地域懇談委員長/杉浦 恭子)

PTAバスツアー

今年は竜ヶ岩洞・館山寺温泉を満喫しました！

8月28日、バス2台、82名の参加者を乗せて、静岡県へバスツアーに出かけました。午前中は、竜ヶ岩洞とうなぎバイファクトリーの見学。竜ヶ岩洞は、総延長1000m超える東海地方最大級の鍾乳洞で、約400mの観光ルートは大変涼しく、2億5千万年の歴史を感じさせるものでした。昼食は、館山寺温泉、サゴロイホテルにて懐石料理をいただき、2時間の昼食時間があつという間に感じるほど、和気藹々とPTA会員同士懇親を深めました。その後、蒲郡の「味のヤマスイ」で海産物を購入し、帰途に着きました。

PTAバスツアーを企画いただいた文化委員のみなさんが、バス内レクリエーションとして同朋クイズを準備して下さいるなど丁寧な準備をいただいたこともあり、大変楽しいバスツアーとなりました。

(PTA文化委員会担当/日比 伸子)

